

楽々旅行のための会話教材
—教師自身の振り返りを通した—考察—
Funny Japanese conversation workshop

盧 偉傑
第一日語暨文化學校

要旨

香港で日本語を学ぶ学習者は日本語能力試験のために学ぶことが多く、会話をする機会が少ないため、授業で学習した文法や語彙を実際に使う機会はほとんどない。そのため、日本語能力試験2級に合格していても、日本語の知識はあるのだけれども、日本語を話すことができない学習者が多くいる。そこで、そのような2級に合格している学習者のための会話教材を作成し、学習者の日本語で話す力を引き出し、日本語で話せるという自信を持たせるような授業を実践することにした。本稿では、教師の実践の振り返りから、本実践を議論する。

キーワード:

授業デザイン、会話授業、教師の振り返り

楽々旅行のための会話教材 —教師自身の振り返りを通した—考察—

盧 偉傑
第一日語暨文化學校

1. はじめに

香港で日本語を学ぶ学習者は日本語能力試験のために学ぶことが多く、会話をする機会が少ないため、授業で学習した文法や語彙を実際に使う機会はほとんどない。そのため、日本語能力試験2級に合格していても、日本語の知識はあるのだけれども、日本語を話すことができない学習者が多い。そこで、そのような2級に合格している学習者のための会話教材を作成し、学習者の日本語で話す力を引き出し、日本語で話せるという自信を持たせるような活動を実践することにした。

本稿では、本活動を実際に行った教師の振り返りを通して、議論する。よい日本語教師になるには、今まで学んできた教授法をそのまま鵜呑みにするのではなく、その教え方を実際に試し試行錯誤を通して自ら学ばなければならないだろう。学習者の現在の状況を考慮しながら新たなものを取り入れていく日本語教師は、きっと楽しく、学びやすい学習環境を作り出すことができ、学習者にとっても効果的な授業となるだろう。

2. 1回目の授業デザイン

まず、筆者は実践の対象者である日本語能力試験2級レベルの学習者にニーズ調査を実施し、学習者の学習する目的を把握することにした。合計44人のアンケートを分析したところ、学習者の多くは社会人学習者であり、その多くが日本語への興味や旅行を目的に学習していた。そして、本調査をもとに、筆者は2時間半の授業で使用する「旅行」を題材とした会話教材を作成することにした。以下、授業の流れである（表1参照）。

表1 1回目の授業の流れ

<p>タスク1 (ウォーミングアップ)</p>	<p>学習者が日本へ旅行に行ったとき、レストランの予約や注文で困ったことがないか教えてもらい、使えそうな言葉を書いてもらう。このタスクは学習者に過去の経験を思い出してもらい、活動のためのウォーミングアップとして行う。</p>
<p>タスク2 (中国語の指示が入った1回目のロールプレイ)</p>	<p>学習者は会話の授業をこれまで受講した経験がないため、いきなりロールプレイをしても方法が分からず、戸惑ってしまう恐れがある。そこで、タスク2では事前に作ったモデル会話の内容を空欄にし、学習者に中国語の指示をもとに会話の練習をしてもらう。</p>
<p>タスク3 (CDとモデル会話)</p>	<p>レストランを予約するときの会話教材を作るため、筆者はいろいろなガイドブックや食事の場面があるドラマやアニメを参考に「レストランの電話予約」と「予約がないまま、レストランに入るとき」の会話文を作成した。最初は会話を録音せずに授業のときに教師が読むだけでいいと考えていたが、教師中心の教え方を回避するため、CDを流して学習者に聞いてもらうことにした。</p>
<p>タスク4 (語彙と文法の導入)</p>	<p>レストラン予約に使えそうな敬語と語彙、文法を復習用に準備した。</p>

1回目の実践で筆者が担当教師として実践を行ったが、本実践は筆者にとって初めての試みであったため、改善すべき点がたくさん見つかった。そこで、1週間後に、日本語能力試験2級に合格した別の学習者を対象に改善した授業を実践することにした。

3. 2回目の授業デザイン

まず、1回目の実践の問題点と筆者が実行した解決法について紹介する。1回目の実践では、学習者はこれから行う活動が一体何なのかわからず、戸惑うことが多々あった。このことを防ぐため、筆者は授業の最初に学習者に本実践の目的と心構え、タスクの流れを説明し、活動には全て一貫性があるということを学習者に伝えるようにした。

楽々旅行のための会話教材
—教師自身の振り返りを通した一考察—

また、1回目の実践では、学習者が頻繁に辞書やインターネット上にある翻訳ツールを頻繁に使い、時間を有意義に使えなかったという問題もあった。そこで、筆者は、本実践には学習者が自分自身の日本語能力を改めて認識する目的があるということを経験者に伝えた上で、辞書やインターネット上にある翻訳ツールを一切使わないように指示することにした。

さらに、1回目の実践では、日本語を話す自信がない学習者はペアワークであっても一人で黙々とタスクを完成する傾向もあった。そこで、筆者は、例え間違えがあってもとりあえず話すことの大切さを学習者に伝え、ペアで話すよう促した。

表2 2回目の授業の流れと担当教師の行動

<p>タスク1 (ウォーミングアップ 及びそのワークシート)</p>	<p>ワークシートは付録1を参照。 会話練習はペアワークでないと意味がないため、全タスクはペアでしてもらうことにした。このことにより、学習者はよく会話を交わし、活発なクラスの雰囲気を作れるのではないかと筆者は思っていた。そして、実際のクラスでは、学習者は楽しそうに話していた。 また、教師は途中で各グループを回って状況を把握するようにした。タスクが終わった後、担当教師は各グループの疑問を聞き出し、ホワイトボードに書き出すことで学習者の注意を向けさせるようにした。 学習者はこの実践を通して、日本に旅行した経験がなくとも、レストランの予約や注文などの問い合わせは、普段香港の日常生活でもよくあると共感するに至った。</p>
<p>タスク2 (中国語の指示が入った1回目のロールプレイ及びそのワークシート)</p>	<p>ワークシートは付録2を参照。 タスク2は中国語の指示が入っているため、教師は特別な説明をする必要はなかったが、簡単な言葉と文法だけで文が作れるということを説明した。その説明をするために、教師は「燈位有落(交差点で)」と「司機, 燈位唔該(運転手さん、交差点でお願いします。)」といったミニバスの運転手に降りる場所を伝えるときの例を出した。このことを通して、教師は学習者に会話の目的は自分の言いたいことを相手に伝えるということであり、短くても単語であっても伝えられればそれでいいということをわかって欲しいと考えていた。 タスク1と同じく、教師は途中で各グループを回って状況を確認した。タスク終了後、学習者にどんな問題があったのかを確認し、ホワイトボードに書き、問題を学習者と一緒に考えた。その結果、学習者は指示した通りに最大の力を尽くそうとしたが、文法や文字語彙の量が足りなく、もしくは思い出せなかったため、言いたいことをうまく伝えられなかったと授業終了後述べていた。</p>

<p>タスク 3 (CD とモデル会話)</p>	<p>モデル会話は付録 3 を参照。 モデル会話の CD を流し、学習者に自分が行ったタスク 2 の会話と比べてもらった。授業を観察していると、学習者は往々に自分の問題に気づき、「私はこの言葉が分かっていたのに」と残念がる様子も見られた。そして、解答用のモデル会話を配り、学習者が CD を 2 回聞きながら、わからない部分に線を引いてもらった。これは学習者だけではなく、担当教師も学習者の日本語レベルを把握できるようになると思ったからである。タスク終了後、学習者に自分自身が発見した問題を報告してもらい、問題をもう一度みんなで話し合った。話し合ったところ、学習者は自分自身が足りていないのは文法や語彙ではなく、自信だということにこの活動を通して気づいているようであった。</p>
<p>タスク 4 (語彙と文法の導入)</p>	<p>教材は付録 4 を参照。 最後のステップは語彙と文法の導入である。一番最初にタスク 4 を行わないのは、学習者はもう日本語能力試験 2 級のレベルであるため、ロールプレイができる能力をすでに持っていると思っただからである。しかし、学習者はすでに語彙と文法を習ったことがあっても、忘れていないかもしれないので、念のため、もう一度全部復習した。ここで重要なポイントは、学習者がわからない語彙や文法があっても、担当教師はすぐに説明してあげるのではなく、ほかのグループの学習者から発言してもらったり、モデル会話の流れに沿って語彙や文法の意味を考えてもらうことである。学習者に考える機会を与えることは、担当教師に説明してもらうより深く理解できるはずだと筆者は考えていた。</p>
<p>タスク 5 (学習者自らやる 2 回目のロールプレイ)</p>	<p>タスク 2 のワークシートを使って 2 回目のロールプレイを学習者に行ってもらった。担当教師は各グループを回って様子を見た。タスク終了後、もう一度各グループに口頭発表をしてもらい、作成したロールプレイの文章を提出してもらった。担当教師は、次回の授業で添削した文章を学習者に返した。2 回目のロールプレイはやはり 1 回目より順調に進めることができた。そして、学習者の運用力も 1 回目よりうまくなっていると感じた。</p>

実践を 2 回行ったが、1 回目より 2 回目の方がうまくできたと感じている。まず、1 回目で学習者に伝わらなかった本実践の意図と流れを、2 回目の授業の初期段階で簡単に説明した。このことにより、学習者は本実践に戸惑うことなく参加できていたようである。また、1 回目の実践では、学習者は日本語を話す自信がなく、話す意欲が低かったが、2 回目の実践では、例え間違いがあってもなるべく話すよう学習者は

励んでいた。さらに、1回目の実践では、学習者は自分自身の日本語能力に頼らず、辞書や翻訳ツールにばかり頼っていたが、2回目の実践では、辞書や翻訳ツールを使うことのデメリットを伝え、辞書や翻訳ツールを一切使わないように指導した。そのことにより、学習者は積極的に自分自身の日本語能力で課題を解決しようとした。そして、本作業に入り、1回目の実践ではあまり学習者の質問や間違いを取り扱うことはできなかったが、2回目の実践ではホワイトボードに書き出し、注意を払うことができた。また、1回目の実践とは異なり、2回目の実践では文法の解説や説明を学習者自ら解決することによって導き出すことにした。

4. 学習者のコメントについて

授業が終わってから学習者にコメントを書いてもらった。その結果、ほとんどの学習者がこの実践は実用性が高いと述べていた。コメントの中に、次のようなものがあった。

この学習法は学生にとって大変助かることです。学生は文法や語彙などが足りていないことは、会話能力に影響を及ぼすと普通に考えているのですが、実際に足りていないのは、話す自信だと今回のロールプレイで実感しました。

この学習者のコメントは、筆者が目指していたことであり、今後もこのような学習者の気付きを促せるような教材開発を進めていきたいと考えている。

5. まとめ

「楽々旅行のための会話教材」は日本語をある程度学習した人のための教材であり、自信や会話能力を身につけるために開発された実用的な実践である。学習者は今回の実践を通して、簡単な言葉でもコミュニケーションができるという会話のコツを掴むことができていたようである。そして、何より重要なポイントは、学習者がこの実践から自分自身の問題点に気づき、会話能力を引き出すための自信を取り戻せたことである。学習者は一般的な紋切り型の会話のコースでなくとも、教師が事前に目的や具体的な流れを説明し、ワークシートにしっかりとした指示を明記すれば、学習者は苦手な会話練習にも積極的に参加することになる。今回の実践は筆者の狙い通り順調に進めることができ、有効的な教材や実践であるということがわかった。しかしながら、本実践は、日本文化に興味を持った学習者を対象に行っているため、全ての教育機関でも実践できるかは疑問が残る。学習者には、単なる興味から日本語を学ぶ者もいれば、仕事のために日本語を学ぶ者もいる。今後はさらに、改善を重ね、様々な学習者の目的に応えられるような実践を自ら生み出していきたいと考えている。

付録1

ウォーミングアップ

レストランでの会話

日本に旅行し、レストランで食事をする場合

1. レストランを予約する時、店員との会話で困ったことがありますか。その時のことを詳しく教えてください。

2. レストランで注文する時、困ったことがありますか。詳しく教えてください。(例：メニューに書いてある飲み物や食べ物の名前が分かりませんでした。)

3. レストランの予約・注文で使う語彙をできるだけたくさん書いてください。

付録2

ワークシート
レストランの電話予約

店員：(接電話, 並說出店名) _____

李：(想 book 位吃飯) _____

店員：(查詢客人想預約的時間) _____

李：(查詢今晚是不是 full booking) _____

店員：(問人數) _____

李：(回應：2 位) _____

店員：(請客人稍等以確認是不是 full booking) _____

店員：(回應客人 6 點有位) _____

李：(想 book 8 點) _____

店員：(回應客人 8 點沒有位, 9 點才有) _____

李：(查詢是否可以搭台) _____

店員：(回絕客人) _____

李：(唯有 book 6 點) _____

店員：(確認客人想坐吸煙區還是非吸煙區) _____

李：(坐非吸煙區) _____

店員：(推薦窗邊位置) _____

李：(坐窗邊位置也沒有問題) _____

店員：(詢問客人姓名) _____

李：(回應) _____

店員：(感謝客人並收線) _____

予約がないまま、レストランに入る時

店員：(於店外向客人打招呼，並詢問有多少人) _____

李：(人數) _____

店員：(問客人有沒有予約) _____

李：(沒有) _____

店員：(確認客人想坐吸煙區還是非吸煙區) _____

李：(坐非吸煙區) _____

店員：(暫時沒有位，要求客人等一下) _____

李：(詢問要等多久) _____

店員：(15 分鐘) _____

李：(向同伴說會等) _____

店員：(派 15 號籌給客人，並請客人稍等) _____

李：(回應) _____

店員：(15 分後) (叫 15 號籌) _____

李：(回應) _____

店員：(帶客人進店內) _____

李：(感謝) _____

付録3

回答

レストランの電話予約

店員 : はい、レストラン『むらさき』でございます。

李 : 予約をお願いしたいんですが…

店員 : はい、予約ですね。いつのご予約でしょうか？

李 : 今晩は空いていますか？

店員 : はい、今晩ですね。何名様でいらっしゃいますでしょうか？

李 : 二人です。

店員 : 少々お待ちくださいませ。

店員 : お待たせいたしました。お客様、今晚の6時は空いておりますが、いかがいたしましょうか？

李 : 6時ですか…ちょっと早すぎますね。8時はどうですか？

店員 : あいにくですが、8時にはもう満席の状態です…。9時なら空いておりますが…

李 : 相席でもないですか？

店員 : はい、申し訳ございません。

李 : しょうがないな。じゃ、6時をお願いします。

店員 : はい、6時ですね、ありがとうございます。禁煙席と喫煙席がございますが、どちらがよろしいでしょうか？

李 : 禁煙席をお願いします。

店員 : 窓側のテーブルもございますが、いかがいたしましょうか？

李 : じゃ、窓側のテーブルで。

店員 : かしこまりました。今晚の6時、2名様、禁煙席、窓側のテーブルでございますね。お名前と電話番号をお願いします。

李 : 李です。電話番号は9234-2356です。

店員 : 李様、ご予約ありがとうございます。今晚のご来店、お待ちしております。

予約がないまま、レストランに入る時

店員 : いらっしゃいませ。何名さまですか？

李 : 2人です。

店員 : ご予約のほうは？

李 : 予約していませんが…

店員 : 禁煙席と喫煙席、どちらがよろしいでしょうか？

李 : 禁煙席をお願いします。

店員 : 大変申し訳ありません。ただいま満席になっておりますので、しばらくお待ちいただけないでしょうか。

李 : どのくらい待てばいいですか。

店員 : 15分ほどでございますが…

李 : (友達に) じゃ、待ちましょう。

店員 : こちら15番の番号札でございます。そちらの椅子でお待ちくださいませ。

李 : どうも。

店員 : (15分後) お待たせいたしました。15番でお待ちの方、ご案内いたします。

李 : あ、はい。

店員 : こちらへどうぞ。

李 : ありがとうございます。

付録4

単語及びフレーズ
レストラン用語

A) 予約を受ける側 (敬語)

- 1) いらっしゃませ
- 2) 恐(おそ)れ入りますが…
- 3) あいにくですが…
- 4) お呼(よ)びいたしますまで、しばらくお待(ま)ちください
- 5) ご予約(よやく)を承(うけたまわ)ります
- 6) かしこまりました
- 7) (大変(たいへん)) お待(ま)たせ致(いた)しました
- 8) ありがとうございます
- 9) 申(もう)し訳(わけ)ありません
- 10) ~でございます (レストラン『むらさき』でございます)
- 11) ~がございます (喫煙席(きつえんせき)がございます)
- 12) ~ております (空(あ)いております・お待(ま)ちしております)
- 13) よろしいでしょうか? (どちらがよろしいでしょうか?)
- 14) ~なさいますか? (いつになさいますか?)
- 15) いかがいたしましょうか?
- 16) いかがなさいますでしょうか?
- 17) ~いただけないでしょうか? (お待(ま)ちいただけないでしょうか?)
~くださいませ (お待(ま)ちくださいませ)

語彙

- | | |
|---|------------------------|
| 1) 何名様(なん めい さま) | 2) 窓側(まどがわ)の席(せき) |
| 3) 相席(あい せき) | 4) 禁煙席(きん えん せき) |
| 5) 喫煙席(きつ えん せき) | 6) カウンター |
| 7) たたみ | 8) テーブル |
| 9) 満席(まん せき) | 10) ご予約(よ やく)の時間(じ かん) |
| 11) 番号札(ばん ごう ふだ) | 12) ご案内(あん ない) |
| 13) ご来店(らい てん) | 14) 空(あ)く |
| 15) 込(こ)む | |
| 16) 少々(しょう しょう) (少々(しょう しょう)お待(ま)ちくださいませ) | |
| 17) 大変(たい へん) (大変申(たい へん もう)申し訳(わけ)ありません) | |
| 18) しばらく | |

B) 予約する側 (文法)

- 1) (6時(じ))に予約(よやく)をお願い(ねが)いできますか?
- 2) 予約(よやく)をしたいんですが…
- 3) ~でお願い(ねが)いします (禁煙席(きんえんせき)でお願い(ねが)いします)
- 4) ~にお願い(ねが)いします (6時(じ)にお願い(ねが)いします)
- 5) ~すぎます (早(はや)すぎます)
- 6) ~どうですか? (8時(じ)はどうですか?)
- 7) どのくらい待(ま)てばいいですか?
- 8) どうも
- 9) ~名(めい) / ~人(にん)
- 10) 待(ま)ってもらいます
- 11) 待(ま)ちましょう
- 12) 待(ま)とう
- 13) 相席 (あい せき)

下記の献立編は次回の授業で使う

C) お献立及びレストラン用語のご紹介 (語彙)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1) 飲(の)み放題(ほうだい) | 2) 食(た)べ放題(ほうだい) |
| 3) ラスト オーダー | 4) コース |
| 5) お勘定(かんじょう) | 6) 追加(ついか)オーダー |
| 7) 大盛(おおもり) | 8) 盛(もり)合(あわ)せ |
| 9) 串焼(くしや)き | 10) 焼(や)き物(もの) |
| 11) 雑炊(ぞうすい) | 12) ご飯(はん)類(るい) |
| 13) めん類(るい) | 14) ~の水割(みずわり) |
| 15) ~のロック | 16) ~ハイ (ウロンハイ・酎ハイ) |
| 17) 生(なま)ビール | 18) 瓶(びん)ビール |
| 19) 缶(かん)ビール | 20) 大(だい)生(なま) |
| 21) 中(ちゅう)生(なま) | 22) 大(おお)瓶(びん) |
| 23) 中(ちゅう)瓶(びん) | 24) 小(こ)瓶(びん) |
| 25) 熱(あつ)燗(かん) | 26) 冷(れい)酒(しゅ) |
| 27) お醤油(しょうゆ) | 28) 唐(とう)辛(がら)子(し) |
| 29) 洋(よう)からし | 30) お酢(す) |
| 31) お箸(はし) | 32) 受(う)け皿(ざら) |
| 33) 小皿(こざら) | 34) おちょこ |
| 35) お会計(かいけい) | |